

<h1>SDT</h1>	<h2>制振工学研究会通信</h2> <p>SOCIETY OF DAMPING TECHNOLOGY NEWS</p> <p>2009年4月号</p>	<p>2009年4月1日発行 編集：会報編集委員会 編集責任者：小白井 敏明 担当者：山口 道征 URL http://www.sdt-jp.com E-Mail: sdt@mbi.nifty.com</p>
--------------	--	--

◇お知らせ

・本通信により会員各位に有用な情報を提供すべく毎月の編集会議では頭を悩まして議論しております。つきましては、ここで取り上げてほしい事がございましたらそのご要望を次のアドレスまで是非お寄せください。

E-MAIL: yamagu@pc.highway.ne.jp

◇研究会の行事案内

開催日時	開催地・会場	名 称	内 容

◇委員会・分科会・WGの予定

開催日時	開催地・会場	名 称
09.04.10 13:00~17:00	B&Kジャパン会議室	計測・評価技術分科会、音響管計測WG
09.04.16 13:00~15:00	工学院大学新宿校舎1711室	会報編集委員会
09.04.16 15:00~17:00	工学院大学新宿校舎1711室	役員会

◇会員消息 (2009年 4月 1日現在)

○会員数		○入退会者	
法人会員	41 社	法人会員	—
個人会員	58 人	個人会員	—

◇関連学協会等の行事案内

開催日	開催地・会場	名 称	主催団体及び内容
09.04.23	東京工業大学・百年記念館 (東京都・目黒区)	2009年春季研究発表会	日本騒音制御工学会 http://www.ince-j.or.jp/02/02flame.html

「日本機械学会が新現役(シニア人材)活躍支援事業に乗り出す」

日本機械学会において中小企業庁「平成 20 年度新現役チャレンジ支援事業」の委託を受けて、団塊の世代の大量技術者(機械学会員)に、退職後も新現役として中小企業や学生に対し、今まで培ってきた自分の技術を伝授し、役立たせることを希望するか、アンケートを実施した報告書が昨年 12 月に発行されました。その結果、対象者約一万名の 76%が生涯現役で活躍したいと希望していることがわかりました。これを受けて、機械学会では仲人事業として、今後中小企業や大学の希望があった場合、希望者の中で、適任の技術者を斡旋する計画を始めたものです。手始めに首都大学・吉村先生より学生実験や特別講義をする希望者の募集がございました。

◇ 技術情報(日刊工業新聞より)

東芝と京大、楽器原音を忠実に再生する技術開発

東芝は 16 日、京都大学の伊勢史郎准教授らと共同で、楽器などの原音を音響・映像(AV)機器で忠実に再生する新技術を開発したと発表した。AV 機器の筐体などに剛性が不足していると、メンスーカから原音以外の音が発生してしまう。今回新たに補助スーカを取り付け、原音以外の不要な音を 90%以上減らすことに成功した。AV 機器に搭載するスーカの音質が高まる。早期の製品搭載を目指す。

原音は、入力した電気信号と同じ波形の音響信号。標準の筐体を使うスーカでは通常、再生される音の約 4 割が原音以外の雑音という。小型や薄型 AV 機器ではそれ以上の雑音が発生する。

補助スーカからメンスーカと逆の位相の音を発生させ、雑音を打ち消す仕組み。周波数領域でも、従来のイライザーなどによる改善法に比べ、同等以上のフラット化効果を確認した。従来方式の多くは、イライザーのように音信号の周波数特性を調整する。

(掲載日 2009 年 03 月 17 日)

騒音規制、冷却塔も対象—中環審専門委が報告案

中央環境審議会(環境相の諮問機関)の騒音未規制施設専門委員会は 16 日、原動機の定格出力が 7.5キロワット以上の送風機を持つ冷却塔(クーリングタワー)を騒音規制法の規制対象である特定施設に追加することが適当などとする中間報告案をまとめた。同様に追加を検討していたボイラと冷凍機は、苦情件数が減っていることなどから現時点で規制対象とするのは適当でないとした。

同報告案は工場の騒音対策の推進にあたり、これまでの規制的手法とともに、騒音レベルを機器に表示する「騒音レベル表示制度」の創設や、騒音防止ガイドラインの策定など多様な政策手段を用いた対応が求められると指摘。今後パブリックコメントの手続きを経て、5月に予定する次回の専門委員会で報告を取りまとめる。騒音規制法は鍛造機や射出成形機など 27 施設を特定施設として定めている。

(掲載日 2009 年 03 月 17 日)

(裏面へ続く)

化学・化繊メーカー、新材料の用途開拓加速－高性能化で新市場創出

化学・化繊メーカーが景気回復後を見据え、新材料の用途開拓を加速している。クレイはアクリル系の弾性材料を照明機器や折り曲げ可能なディスプレイ向けフィルムとして提案を始めた。帝人は熱伝導率が高い独自のピッチ系炭素繊維を発光ダイオード（LED）照明向け放熱材料として売り込む。昭和電工もカーボンナチューブ（CNT）の用途開拓を急ぐなど、各社の高機能・高性能化を図った新素材をめぐる新市場創出の動きが活発化してきた。

クレイはアクリル系の弾性材料「LAポリマー」を折り曲げ可能なディスプレイ向け部材用にサンプル出荷している。08年には鹿島事業所（茨城県神栖市）のハイットプラントの生産能力を従来比約6割増の年500トンに引き上げた。今後は本格的な商業プラントの建設も視野に入れる。

帝人もピッチ系炭素繊維「ラヒマ」をLED照明や液晶ディスプレイ、パソコンなどの放熱材料として提案する。

（掲載日 2009年03月18日）

東洋紡、鉄並みの強度実現したガラス繊維強化ナイロン樹脂開発

東洋紡は18日、世界最高レベルの強度と剛性、耐衝撃性を持つガラス繊維強化ナイロン樹脂（GFRP）「JF-30G」を開発したと発表した。鉄や亜鉛並みの強度を持ち、射出成形加工もできる。軽量化が求められる自動車部品やモバイル機器の筐（きょう）体などで金属材料の代替を狙い、2015年度に売上高80億円を目指す。

JF-30Gは、ガラス繊維と樹脂の複合加工技術を応用した。炭素繊維強化樹脂と比べて強度や剛性、耐衝撃性は同程度でありながら、価格は3分の1程度となる。

吸水率は従来のGFRPが約2%に対し、JF-30Gは0.6%と低く、成形品の物性変化が小さい。すでに岩国事業所（山口県岩国市）内に量産できる体制も整え、自動車部品メーカーにサンプル出荷を始めている。

（掲載日 2009年03月19日）

事務窓口	〒101-0061東京都中央区銀座 2-10-18 社団法人 日本合成樹脂技術協会
	Tel. 03-3542-0261 Fax. 03-3543-0619
	URL http://www.sdt-jp.com E-Mail: sdt@mbi.nifty.com